

# 愛知県豊橋市の江戸時代の遺構から発見された シャープゲンゴロウモドキ

長谷川道明\*

A remain of *Dytiscus sharpi* Wehncke, 1875 (Coleoptera, Dytiscidae)  
from the Yoshida Castle site, Toyohashi City, Aichi Prefecture, central Japan

Michiaki Hasegawa\*

## はじめに

平成17年11～12月にかけて、豊橋市内の新聞社の新社屋建設にさきがけておこなわれた「吉田城址第24次調査」において大型昆虫の遺体が産出し、筆者の許に調査の依頼が入った。とどけられた昆虫遺体のうち2個体は、ほぼ完全な形をとどめており、一見してガムシ *Hydrophilus acuminatus* Motsulsky と、シャープゲンゴロウモドキ *Dytiscus sharpi* Wehncke であることがわかった。

シャープゲンゴロウモドキは、保全上の重要種としてよく知られた本州特産の大型のゲンゴロウである。これまでに千葉県、東京都、神奈川県、佐渡島を含む新潟県、富山県、石川県、福井県、愛知県、滋賀県、京都府、大阪府、島根県の12都府県から記録があるが、生息環境の悪化等により大多数の地域ではすでに絶滅し、現在残された生息地は国内に数箇所しかない(森・北山, 2002; 京都府, 2002 など)。愛知県は、東海地方で唯一記録が残る地域であるが、江上(1943)による検証のできない古い記録が一例あるに過ぎない。

こうした中で豊橋市の江戸時代の遺構から本種の遺体が発見されたことは、本種の本来の分布域を知る上で重要な資料となるので、ここに詳しく報告したい。

本文にあたり、本研究の機会を与えていただき、また吉田城址遺跡についてご教示いただいた豊橋市美術

博物館の贅元洋主任学芸員、岩原剛学芸員に厚くお礼申し上げる。また神奈川県立生命の星地球博物館の高桑正敏学芸部長、荻部治紀学芸員、東京大学大学院農学生命科学研究科保全生態学研究室の西原昇吾氏には、文献の恵と貴重なご助言を頂いた。記して厚くお礼申し上げる。

## 産出場所及び層準

遺体が産出した発掘現場は、豊橋市のほぼ中心部で、国道1号線に隣接する吉田城址遺跡の一角である(第1図)。吉田城は、中世から近世にかけて、愛知県東三河地域の政治中枢として機能しつづけた城郭で、近世には堀や土塁によって城内が区画され、中心には城主の居住や藩政の中心となる本丸～三の丸が、外縁部には家臣団の屋敷地が存在した。

発掘調査区は、家臣団屋敷地の一部にあたり、シャープゲンゴロウモドキは、調査区の南東隅に検出された池遺構から発見された。この池遺構は、おそらく屋敷内での観賞用の池であったと推測され、廃絶時に埋められたと推測される砂質土の最下部に帯水状態であったことを示す暗灰色粘土が堆積していた。シャープゲンゴロウモドキは、この暗灰色粘土中より近世の陶磁器、大量の植物遺体、ガムシ *Hydrophilus acuminatus* Motsulsky、ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* Motsulsky の遺体などと共に出土した。出土した陶磁

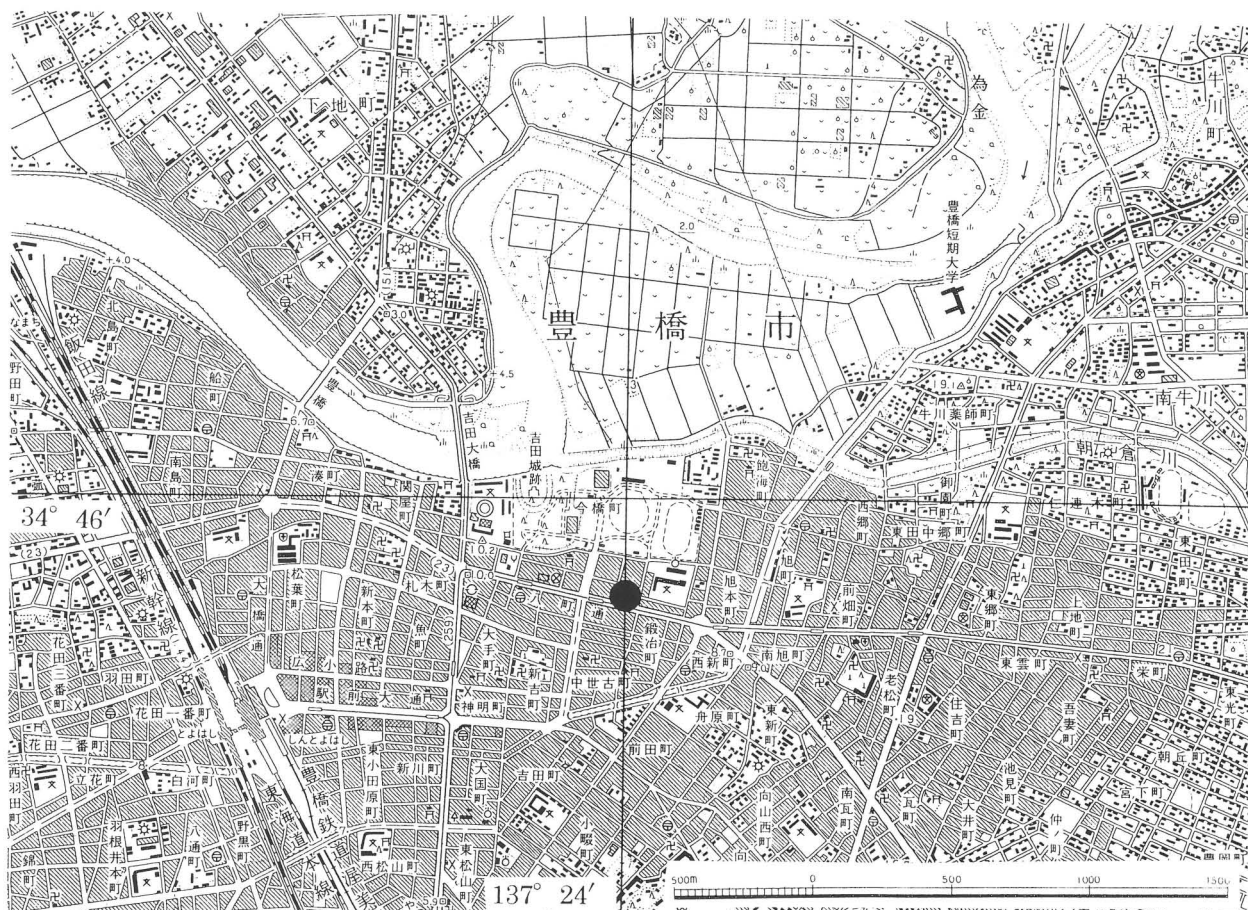
\* 豊橋市自然史博物館. Toyohashi Museum of Natural History, 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi 441-3147, Japan.

原稿受付 2006年12月19日. Manuscript received Dec. 19, 2006.

原稿受理 2006年12月22日. Manuscript accepted Dec. 22, 2006.

キーワード: 昆虫遺体, シャープゲンゴロウモドキ, 愛知県, 豊橋市, 江戸時代.

Key words: Insect remains, *Dytiscus sharpi*, Aichi Prefecture, Toyohashi, Edo period.



第1図. 産出地位置図.

黒丸は産出地を示す. 国土地理院発行2万5千分の1地形図「豊橋」使用.

器は, 17世紀後半を中心に一部18世紀まで継続して使用されていたものと考えられる(贇・岩原, 私信).

### 標本の記載

シャープゲンゴロウモドキ  
*Dytiscus sharpi* Wehncke, 1875  
 (第2図 a-d)

標本: ♀, 豊橋市自然史博物館保管 (TMNH-I-21099).

前胸背板(第2図 a). 前縁はほぼ中央部より左前角部分が欠損. 黒色で, 側縁は幅広く黄色に縁取られる. 長さは約5.9mm. 前角は三角形状で, 後角は丸まる. 側部は僅かに弧状. 表面は, ほぼ均一に小点刻を密に装い, 側縁部にはやや大きめの点刻がまばらに混じる.

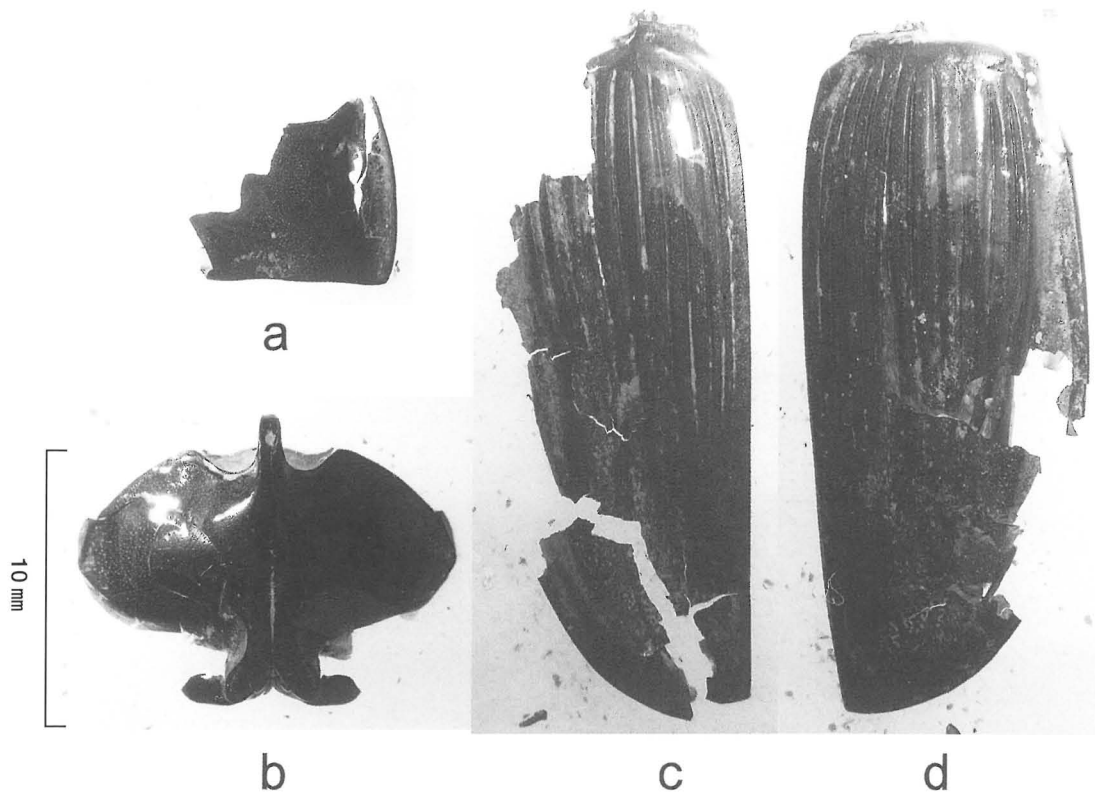
後胸腹板(第2図 b). ほぼ完全. 黒色で後縁部は僅かに黄色に縁取られる. やや不明瞭な皺と小点刻を密に装う. 小点刻は側部では明瞭で中央部付近では認め

られない. 後基節突起は, 外側が縁取られ, 先端は丸まる.

上翅(第2図 c, d). ほぼ完全に近いが, 左肩部, 右側縁後部が欠損. 上翅長(小楯板の後端から翅端部までの長さ)23.6mm. 黒色で, 側部には外縁にそった幅広い黄色条が認められる. 中央よりやや後方で最大幅となり, 翅端部はほぼ直角. 10条の明瞭な縦溝が認められる. 縦溝は内側のものほど発達し, 上翅長の0.56倍の長さには達する. 表面は小点刻を密に装う.

備考: 後基節突起の形状には, 本個体と比較に用いた千葉県産ならびに石川県産のシャープゲンゴロウモドキとの間に有意な差異は認められなかった.

シャープゲンゴロウモドキのメス上翅の縦溝は, 中部地方から西日本に分布する個体群には例外なく出現するが, 関東地方に産する個体群では, これを欠く個体が出現するなど変異があり, 両者は別亜種として区別されることがある(森・北山, 2002など). 残念ながら関東地方の個体群については, 十分な比較標本を検査することができなかったが, 豊橋市自然史



第2図. 吉田城址遺跡より産出したシャープゲンゴロウモドキ.  
a, 前胸背板; b, 後胸腹板; c, 左上翅; d, 右上翅.

博物館に保管されている石川県産のメス8個体と、上翅長（小楯板の後端から翅端部までの長さ）、縦溝長（最長の溝の基端から先端までの長さ）ならびに上翅に占める縦溝長の割合を比較した。その結果、石川県産では、上翅長 21.0-23.2mm（平均 22.2mm）、縦溝長 11.9-13.2mm（平均 12.5mm）、縦溝長／上翅長 0.53-0.6（平均 0.56）で、吉田城址遺跡から産出した個体との間に有意な差は見出されなかった（第1表）。

### 東海地方からのシャープゲンゴロウモドキの記録と遺体産出の意義について

江上（1943）は、瀬戸市定光寺付近で昭和14年以降に級友とともに採集した水生昆虫として、18種の甲虫類のリストをあげ、その中に、当時使用されていた「コゲンゴロウモドキ *Dytiscus validus*」の名の下に本種を掲載した。同リストには、本種と誤認されやすいゲンゴロウ *Cybister japonicus* Sharp, コガタノゲンゴロウ *C. tripunctatus orientalis* Gschwendtner もあげられていることから、本種を近似種から識別していることが伺われる反面、なぜか挿図には「ゲンゴロウモドキ」

のスケッチを掲載している。このスケッチは、粗雑なものではあるが、前胸背の周囲が広く黄色に縁取られ、ゲンゴロウモドキ *Dytiscus dauricus* Gebler の特徴をとらえていることから、「コゲンゴロウモドキ」の誤植ではない。穂積（1989）は、著者である江上信雄博士の生前に書簡で標本の所在、正確な採集地点、採集者を直接本人に照会したが、すでに採集者、採集場所とも博士の記憶がなく、標本は戦災で焼失したとの回答を得た。従ってこの記録の真偽についてはすでに確認できない状態にある。

中部地方から西日本のシャープゲンゴロウモドキの記録地は日本海側に偏り、滋賀県を經由して京都府、大阪府といった近畿地方に伸びているが、前述したように江上（1943）を除けば東海地方からは確認されていなかった。今回の発見は、シャープゲンゴロウモドキの分布域が太平洋に面する豊橋平野にまで達していたことを明らかにし、同時に瀬戸市定光寺でかつて採集したという、江上（1943）の信憑性も高めるものとなる。また東海地方では近代以降の人為的な影響によって絶滅したことを示唆するものである。

第1表. 各産地間におけるシャープゲンゴロウモドキ♀  
個体の上翅長ならびに縦溝長.

産地	上翅長(mm)	縦溝長(mm)	縦溝長/上翅長
千葉県	22.1	0	0.00
吉田城址	23.6	13.3	0.56
石川県 1	21.1	11.9	0.56
石川県 2	21	11.9	0.57
石川県 3	22	13.2	0.60
石川県 4	23.2	13.2	0.57
石川県 5	22.6	11.9	0.53
石川県 6	23.2	13.2	0.57
石川県 7	22	11.9	0.54
石川県 8	22.6	12.7	0.56

### 引用文献

- 愛知県, 2002. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータあいち 動物編. 愛知県自然保護課, xi+596p.
- 江上信雄, 1943. 名古屋市外 '定光寺' 附近の水棲昆虫. 採集と飼育, 5 (3) : 78-79.
- 穂積俊文, 1989. 大珍種シャープゲンゴロウモドキが愛知県で記録されていた. *Napi news*, (222) : 2095-2096.
- 京都府, 2002. 京都府レッドデータブック 上巻 野生生物編. 京都府, 935p.
- 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版図説日本のゲンゴロウ. 文一総合出版, 東京, 232p.